

琉球・沖縄
年中行事?なんでも!
Q&Aウチカビを使いますか?
使いませんか?

●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職
帰依 龍照 (きえりゅうしょう)

Q

主人が亡くなり、仏壇をみています。実家はウチカビを使っています。実家では嫁ぎ先では使っていません。友人には使ったほうがよいと言われている。お盆も近いし、息子にも引き継ぎたいのでどうしたものでしょうか?

(80代女性Sさん)

A

大学院時代に、恩師から「天牛(てんぎゅう)の比喩(ひゆ)」というお話聞かせていただいたことがあります。中国のとある村のこと、お母さんと息子さんが丹精込めて育てた黒牛を市場へ売りに出すことになりました。山河を越え、黒牛をつれて歩く途中、村外れですれ違った旅人から「誰も乗せないで牛をつれて歩くのはもったいない」と助言されたそうです。それもそうだと考えた2人は、お母さんを黒牛に乗せて歩くことにしました。しばらくすると、山の麓ですれ違った旅人から「子(こ)を思うはずの母が牛に乗り、自分だけ楽をするのはよくないから、母は降りて子を牛に乗せなさい」と助言されます。それもそうだと考えた2人は、息子さんを黒牛に乗せて歩くことにしました。しばらくすると、川の岸ですれ違った旅人から「母を思うはずの子が牛に

乗り、自分だけ楽をするのはよくないから、子は降り、母を牛に乗せなさい」と助言されます。これでは、堂々巡りです。それぞれの旅人の助言に困り果て、市の門前に腰を下ろす2人に、天から「母を乗せても助言され、子を乗せても助言されるのなら、母子2人が牛に乗りなさい」との声が聞こえてきたそうです。それもそうだと思つた2人が黒牛に乗り、その様子を見た人々からは、「2人を見せる立派な牛がいる」と、黒牛は高値で競り落とされたのだそうです。

実は、この天からの声は先立たれた……、お母さんからするとご主人・息子さんからするとお父さんの声だったといひます。天からの声の真偽はともかく、Sさんのご友人からすれば、それぞれの旅人のように、ご自分の価値観から良かれと思ひ助言をされたことでしょうか。友情というものは、本当にありがたいものです。一方、今回のご質問は、沖縄のしきたりであるシジ(筋)という観点から考えてみられてはいかがでしょうか。

シジについて

シジは別名・シジカタ(筋方)・チーシジ(血筋)ともいわれ、一般的には父方の血統・家系を表すといひます。

血統・家系の拡大解釈として、父方の儀式・法要の作法・心得しきたりをも含んでいるといひます。Sさんの嫁ぎ先はご主人方(父方)の血統・家系をシジと仮定するとき、そのシジはご主人の儀式・法要での根本的・中心的な考え方となります。ご主人方は、ウチカビを使わないという選択をされています。

ウチカビを使わない理由

沖縄では、ウチカビを使う地域・家庭もあれば、使わない地域・家庭もあります。中でも、使わないという選択には、

◎ウチカビを宗教・宗派的な理由から使用しない

◎ウチカビを生活改善(簡素化)的な理由から使用しない

◎ウチカビを偽幣(ぎへい・偽札)的な理由から使用しない

などがあるといひます。「天牛の比喩」までとはいひませんが、優先されるのは旅人の助言ではなく、天の声に諭(たと)えられるご主人・お父さんのお考え(声)です。現状では、Sさんのご主人の法事(ウスコー)や年中行事のウンケー(迎え盆)・ウーカイ(送り盆)などのご供養は、ウチカビを使われていないことでしょうか。

今回の回答としましては、シジに関わる息子さんへの引き継ぎになりますので、「使う・使わない」の判断は、シジという考え方の拡大解釈として、ご主人方を優先するということになりますかと思ひます。

ご実家・ご友人の現状・助言はありがたいもので、ウチカビについて一理あつてしかりです。その意味で、Sさんは素晴らしい環境の中で日暮らしさせていただいているといひます。シジという沖縄の文化を大切にしながら、ご主人の声なき尊い声を聴きつつ、嫁ぎ先のしきたりをつつかりと次世代の息子さんへ伝えていくことは、息子さん・黒牛と共に天のご主人を感謝しつつ仰ぎみる「天牛の比喩」のお母さんの如く、喪主であるSさんの大切な役割なのかもしれませぬ。

